

MB&F

マキシミアン・ブッサー&フレンズ

ハリー・ウィンストン・レアタイムピースズで「オーバス」シリーズを生み出したマキシミアン・ブッサー氏が独立し、自らのブランドを創設して3年目を迎える。そして昨年末、多くの“友人”たちの協力を得て、第2作目の「ホロジカルマシン No.2」も完成した。



マキシミアン・ブッサー氏(右)と、「ホロジカルマシンNo.2」のプロジェクトに参加した彼の「フレンズ」たち(左)。従来、独立時計師が注目されることはあっても、デザイナーをはじめ、設計から完成品までに関わった人々の名前が前面に出ることはなかったが、フレンズ・コンセプトが新しい風を巻き起こしている。

MB & Fは時計作りの新たな方向性を示す新進高級時計ブランドで、主要するマキシミアン・ブッサー氏が打ち出す「フレンズ・コンセプト」が注目される。これは彼がジャガー・ルクルトやハリー・ウィンストン・レアタイムピースズでの経験のなかで知り合った多くの人々を時計作りのさまざまな面で起用し、今まで黒子であった彼らにもスポットを当てようという試みでもある。この背景には友情に近い信頼関係があることはいままでのない。MB & Fの製品第一号となった「ホロジカルマシン No.1(小誌第85号および第89号に掲載)はデミエ1738製ムーブメントをベースとするトゥールビヨンで、16人がプロジェクトに関わっている。これに次いで自動巻きの「ホロジカルマシン No.2」がデザイナーや技術者、製造者など18人とともに完成した。縦38mm、横59mmの大型のレクタングラー・ケースには舷窓を思わせるふたつの窓がホルトで留められている。

「1980年代のSF映画で見たバブルのなかに息づく生命体をイメージした」とブッサー氏は語る。また約102部品から成るケースの構造は、ブッサー氏が子どもの頃に遊んだメカノ(組み立て式玩具)からヒントを得たという。そしてジラルール・ベルゴ製をベースにジャンピングアワー、レトログラード式の分表示と日付表示、南北両半球の月齢表示を備えるムーブメントが3人の技術者によって開発された。開発には分針が帰零する瞬間にジャンピングアワーを作動させることが条件となった。そして分が60から0に戻る瞬間に、分表示機構に付けたパーツが時表示機構(アウスタ)をたいて、時がジャンプする機構が誕生した。自動巻きローターはNo.1と同様に、ブッサー氏が子どもの頃にテレビで見た、日本のコミックに登場するダブルハーケン(半月状の鎌)がモチーフだ。チタンと18Kホワイトあるいはレッドゴールドを組み合わせ、ポリッシュとマット仕上げを施したケースをはじめ、最先端技術と伝統的な時計製造という異なる要素を融合させて生じる緊張感の調和を保つこともMB & Fの時計作りが目指すところだ。そしてこれはフレンズ・コンセプトにも通じる。

ホロロジカルマシン No.2

HOROLOGICAL MACHINE No.2

舷窓をイメージしたふたつの表示窓の右側でジャビングアワーとレトログラード式の分表示、左側でレトログラード式の日付表示と南北両半球の月齢を表示する。
ケース・サイズ38x59mm、厚さ13mm。18Kホワイトゴールドとチタン。3気圧防水。予価770万円（18Kレッドゴールドとチタンのモデル、予価770万円）。3月発売予定。



ジラルレ・ベルゴ製自動巻きムーブメントをベースにアジェノー社のジャン・マルク・ウイターレキドをはじめ3名が設計に関わる。自動巻き。毎時2万8800振動。パワーリザーブ約46時間。44石。部品点数349。22Kローズゴールドのダブルハーケン自動巻きローターを備える。3年間で500個のムーブメントを製造する予定だ。完成品は18Kホワイトゴールドとチタンのモデル、18Kレッドゴールドとチタンのモデル、それぞれ125個が3年間に作られる。